

百鬼夜行



Night Parade of One Hundred Demons



井上信太

美術家 / アートコンダクター

羊飼プロジェクトを中心に国内外で多数の展覧会を行なう。近年は、多領域のアーティストとのコラボレーション、劇場、能舞台、ファッションショー、茶室など新しい空間での平面構築を積極的に取り組み、次世代平面表現の可能性を探っている。主にホスピタルアートや障がいのある子どもたちとのセッションを行う。近年は三陸沿岸での防潮堤や三陸鉄道でのプロジェクト、ポストワークショップをテーマに世界中の子どもたちとセッションを行う。堺市生まれ。堺市文化芸術審議委員。



インドネシア伝統芸能団ハナジョス

ガムランユニット / ワヤン

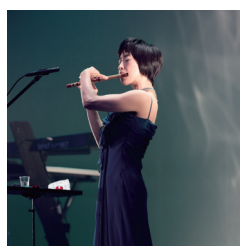
2002年ジョグジャカルタで結成。ジャワの伝統音楽ガムランと影絵芝居ワヤンの上演を中心にワークショップや作曲、演奏指導、アーティストや子どもたちとのコラボレーションなど、2005年より日本を拠点に活動。妖怪、化け物、鬼、精霊、獣、人間、神...異世界の者たちが出会い、影として生きるインドネシアの芸能「ワヤン」。奇妙な影の虜となったローフィとひろみ（人間）が歌い、奏で、影を操ります。



参加者のみなさま

こどもの心をもったこどもたち

ワクワク、ドキドキ、ウキウキ、ニコニコ！五感を通し単一の感覚だけでなく、組み合わせ体験による相乗効果でワクワク感を増幅します。最初に軽いストレッチや呼吸、感覚のスクリーンで五感を開きます。動きながらものづくり、静かな場所でヒソヒソ話。動きに合わせて作る・組み立てるなど、身体の行動から創作を導く。最後にみんなでおふしぎなランウェイを練り歩く百鬼夜行ファッションショーのスタートです。



井上真実

篠笛奏者 / 作曲家

和太鼓集団「鬼太鼓座」で篠笛奏者として海外公演をこなす。5年間のオランダ滞在中に、多くのアーティストと共演し、ヨーロッパ諸国の120カ所で公演する。物心ついた時から息を入れる楽器が好きで、水笛からはじまり篠笛にたどり着く。色にも音があると云って「切絵」制作にも没頭する妖怪狐、特に『九尾の狐』好き。怪しげで、何にでも化け、空も飛べる九尾の狐に憧れている。狐が歌うメロディーを奏でたい。